

§ 9 キリスト教海外伝道とは

—今お話をうかがっていますと、讃美歌の普及を非常に重要視されています。十八世紀の後半からアジア太平洋に讃美歌が普及した。日本もその中に含まれていて、讃美歌の影響から唱歌が生まれたと。そこでなんですが、その讃美歌を普及させたのは、私にはほとんど分からないのですが、どんな人たちだったのでしょうか。

キリスト教海外伝道師とか外国宣教師と呼ばれる人たちです。

—となりますと国内伝道師という人もいたのですか？

はい、いました。特殊な例では、アメリカのネイティブの人々へ伝道した宣教師です。

—そうなんです。今日のお話に関係するのは海外伝道師、外国宣教師ですね。

はい、そうです。海外に出かけてキリスト教を広めるということを行った人たちです。

—その海外伝道師ですが、私たちには縁遠いと言うか、なかなかイメージがわからないのですが、どんな風にとらえたいのでしょうか。正直言いますと海外まで出かけていって自分たちの宗教を布教するなんて、余計なお世話だと思いませんか？

確かに、同感できますね。宣教師の人格と言いますが、気質と言いますか、それをお話しする前に、私たちがほとんど知らない、キリスト教海外伝道団について簡

単に紹介します。

——キリスト教海外伝道団？ それは一体どんな組織なのですか？

繰り返しになりますが、日本の唱歌とは本当は何だったのか。それを知るためには意外に思われるでしょうが、キリスト教海外伝道について知る必要があります。

それを行った組織が海外伝道団ですが、伝道会社と訳している本もあります。簡単に説明しますと、キリスト教布教のためにはまず人を海外に送らなければいけませんね。それから海外に送った人たちがまず生活出来て、キリスト教を布教するというある種宣伝活動やそれに付随した教育活動を行えるだけのいろいろな物資援助とかそういったものが必要ですね。そのためには当然膨大な資金が必要です。

そこでアメリカの例で言いますと、アメリカ本国に宣教師を海外に派遣する事業を行うための財団が出来ます。最初のキリスト教海外伝道団は一八一〇年に設立されました。宣教師はその財団から派遣されて、そこから資金をもらって海外に赴任していきます。ですから応募とか審査とか資格とかが問題になりますが、その詳しいことは省略します。

——なるほど。となりますと、財団を運営する資金が必要になりますね。規模にもよるでしょうが、かなりの額でしょうね。

団体の運営だとか、宣教師を海外に派遣して現地での活動を支える資金がどこから出てくるか、これが一番大きいと思います。

—まさか今の日本のように、政府の援助資金というわけにはいきませんものね。

そうですね。当たり前と言えは当たり前なのですが、寄付です。信者からの寄付です。普通の信者さんたちが出来る範囲でしてくれた寄付を集めるわけです。教会に行かれた方はご存知だと思いますが、礼拝のどこかで必ず献金の時間があります。帽子ではありませんが、それに似た棒のついたようなものとか、献金籠が回ってきました、それにながしかのお金を入れます。全くあれと同じです。

アメリカでも小さな村や町にある教会一つ一つでそういうふうにして集めたお金をさらに支部で集めて、それをさらに大きな州単位で集めて、最後に伝道団の本部に集める。そういう形で小額の寄付を集約していきます。こうして一人ひとりの信者さんから集めたお金で、宣教師を海外に派遣して現地での活動を援助しました。

—なるほどそうですか。まあ、考えてみたら布教活動は利益の上がる活動ではない、ある種無償の行為ですものね。

出版物の売り上げとか多少の収益はあったでしょうけどね。本国でも宣教雑誌の売り上げという収入源もありました。後は、大企業のオーナーとかお金持ちからの多額の寄付だとか、遺産による多額の寄付というのもありました。

—そういう面から見ますと、キリスト教海外伝道というのはアメリカの場合、アメリカという新興国家の国力の増進の象徴にも見えますね。ところで日本にもかつてはたくさんの宣教師がやってきたのですか。



関西にやってきたアメリカの宣教師たち

出典：本井康博『京都のキリスト教—同志社教会の19世紀』（同志社教会刊）

特に目立っているのは明治になってアメリカからやってきた宣教師たちですね。分かりやすい例を示しますと、日本には彼らが活動したことによって出来たたくさんさんの学校が今でも続いています。学校の起源が昔宣教師の開いた学校だったものがたくさんあります。

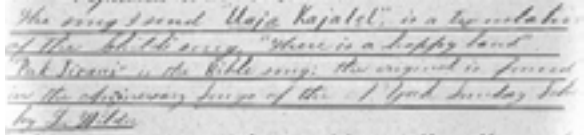
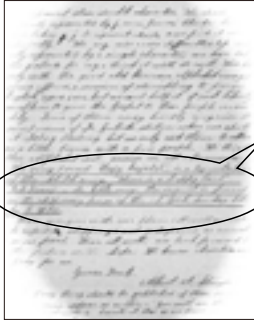
— いわゆるミッションスクールですね。

ミッションというのは大ヒットした映画「ミッション・インポッシブル」のミッションと一緒に「使命」とか「任務」という意味ですね。キリスト教海外伝道で使う場合もこの言葉には当然その意味も含まれていますが、正確には、宣教師たちが現地組織した布教活動団体のことを言います。その団体が布教の目的で設立した学校だからミッションスクールというわけです。

— 有名なところでは神戸女学院大学がありますね。

他にも関西では同志社大学や関西学院大学がそうですね。九州に行きますと、福岡女学院大学、活水女学院大学、西南学院大学ですね。関東では、立教大学、青山学院大学。

— あげていけばきりがないですね。



“There is a happy land” (後日本で『小学唱歌集初編』(1882年)第15「春のやよひ」になった讚美歌) に言及

The song I send "Uaja Kajalei," is translation of the child's song, "There is a happy land." "Ruk Jirani" is the bible song; the original is found in the Anniversary Songs of the N. York Sunday School by L. Wilder.

ミクロネシアの最初の宣教師
スタージスの書簡 (1856年
2月13日)

出典：American Board of Commissioners for Foreign
Missions. Paper (Primary Source Media / Cengage
Learning)

それだけミッションが熱心に活動したことの証拠でしょう。特に日本の近代教育に対するミッションの影響は無視出来ないものでしょう。でも、たいてい無視されることが少なくないのですが。

§10 伝道にとつての音楽

— お話をうかがってきて私の中で混乱してきましたのですが、宣教師にとつて本来の目的はキリスト教を伝えることですね。

もつと言えば、キリスト教の信者さんをたくさん作り出して彼らが現地で教会を組織すること、宣教が成功したか失敗したか評価する場合の重要な基準がそれです。

— 今日本の大学で盛んな評価を、宣教師たちも受けていたのですか。

もちろんそうです。先ほど言いましたように、信者一人ひとりの貴重な寄付によって活動しているわけですから、当然評価されます。彼らはですからじつにために、本部や支部に宛てて手紙を書きますし、それもたいていはかなり長いものです。その他に義務として、年間報告書も提出しますし、年大会で報告したりもします。ちよつと話題がそれでしたが。

— 話題を戻しますが、そういった宣教師の本来の目的と讚美歌との関係が